

埼玉県下の特殊コレクション

浅見 利二

森田 雄一

今日まで県全体の特殊コレクションの把握がなされていない現状なので、今後の研究利用の便をも配慮して、この機会に、現在県内に残されているものを所蔵図書館等を中心に紹介してみよう。

〔秩父図書館〕

・秩父宮文庫 故秩父宮殿下の御遺徳を偲び秩父宮妃殿下よりの御下賜図書を基にして、秩父宮会より図書の寄贈を受け昭和29年6月設立、内容は修養書、医学書およびスポーツ関係図書が多い、蔵書数325冊。

・凡海文庫 故秩父新聞社社長、秩父札所14番住職、田島凡海（忠雄）氏の寄贈により昭和32年7月設立、内容は歴史書殊に武蔵国関係の図書が多い、蔵書数497冊。

・山田文庫 皆野町、国神の元小学校長山田懿太郎氏の蔵書の寄贈を受け昭和37年9月設立、内容については未整理のため明らかではないが和書が多い、蔵書数約1,600冊。

古文書コレクションの部

・高野家文書 286点（冊子）

・松本家文書 698点（冊子）

忍藩秩父領の中、各村名主の上に置かれた割役名主が支配したのは1郷21ヵ村である。この割役名主は常に大宮郷（現・秩父市）から任命され、宝永年代以降は4家（高野・松本・新井・久保）が世襲した。当館所蔵の上記2家文書は、割役名主の公式記録である『御用日記』130点を含み、寛文年間から明治11年に至るまでの資料である。

資料の中心となる『御用日記』は、武家法と地方法の接点あるいはパイプの立場にあっ

た丸役名主の性質上、貢租課役割付、触達などの伝達、民政の指示、民政事情の代官宛報告、諸願の代官宛通告、出入の受付と立会、各名主の統轄と指示などが記録されていて江戸時代山村社会の景況が歴然とするが年番交替制であったため、非番時の日記を失し、両家日記は相補いながらも、完全とはいわれない。なお状物には約1千点が所蔵されているが目録は未作成である。

・逸見家文書 509点（状物）逸見家は秩父郡野卷村（現、秩父郡皆野町）の名主を勤めた家柄で、この資料は江戸時代前期の租税、土地、運輸関係が目立っている。

・斉藤家文書 1,354点（内745冊、609状）

秩父郡栃谷村（現、秩父市高篠）の名主家の所蔵していた史料で寛文年間より明治20年代後半期までの長期間の状冊ものを含み、特に江戸時代初期の年貢関係、明暦期の検地帳、明治初期の地租改正関係史料が多く目につく。

〔熊谷市立図書館〕

・三浦文庫 三浦道円は医を以って壬生城主阿部侯に仕えたが、その子孫玄昌の代に当熊谷に移り住みその後代々町の名医として続いた。中でも無窮は特にその名が高く、江戸の医官長谷川玄通に医術を学び、新しい療法を行なった。その門弟中には群馬県の石田元圭といった著名医も輩出している。本文庫の寄贈者三浦元氏も医学博士として活躍しておられる。こうした江戸期からの名医家だけに文庫中に医籍は勿論、文人墨客の出入りもあって、和漢の書が広範囲に収集され、387冊からなる文庫として昭和26年寄贈を受けた物で

ある。病理学書の嚆矢『病学通論』を初め医学書90冊、『蘭学逡』のごとき蘭学書、『柳文』『韓文』などの漢籍等見るべき古文獻も数多く、さすが数代に渡っての収書である事を物語っている。

・石川文庫 昭和27年(1952年)4月熊谷市本町1丁目石川琢二氏寄贈による物で、石川家は熊谷の竹井家と並ぶ本陣であり、また熊谷宿6人衆の一として代々町年寄を勤め、俗に南石川と称する旧家である。

文庫は江戸時代からこの家に伝わった和書と現戸主石川琢二氏の集書合せ209冊からなる物で、書道関係コレクションとして特に書家および書道史研究の上では貴重な資料であろう。合せて、漢籍、歌学、神道にも及び幅広い収書である。中でも北海道炭鉱鉄道あるいは広島製作所と実業界に名を残した石川信氏自筆による28巻の法華經の写本は別の意味での貴重書である。寄贈者石川琢二氏はコピー複写の研究、応用化学の特許を持つエンジニアで工業関係書20余点も含まれている。

〔川越市立図書館〕

・松平大和守家文庫・松平周防守家文庫

旧川越藩主の松平両家から寄託になった旧蔵書である。前者は昭和9年松平直富氏より後者は昭和12年松平康昭氏より寄託となったが、本館ではそれぞれ独立した文庫として取扱い、一般の図書とは別置している。

文庫の内容については松平大和守の文庫は183部、1,024冊で、このうち藩政史料に類するものが約40部、その他は松平家の旧所蔵本である。注目すべきものは有名な川越版『日本外史』の弘化元年(1844)の初刻から明治32年の14刻までの各版および校正刷、版本などが完全に揃っていることである。ほかに日本外史の標注本、増補本はもとより上海版まで収蔵されていることは、外史編著史を研究する好資料といえよう。

松平周防守家の文庫は25部、55冊で、すべてが藩政史料である。『古老伝聞記』『白虎雑話』『御戦功記』などは、いずれも康親・康重時代の藩政をもの語るもので、『御勤書』は宝暦から天明年間の藩庁記録である。また明治2年の「版籍奉還被仰付書」「藩知事令書」はどちらも原文が収められている。この特殊文庫は川越の近世史を知る上に欠くことのできない貴重な資料である。

その他、新井政毅(まさはた)氏、山田衛居(もりい)氏の旧蔵本を主とした特殊文庫、139部、219冊あり。

〔県立浦和図書館〕

・曙霞文庫 現伊奈町在住の名家、加藤家累代の旧蔵書の寄託により昭和46年3月設立、内容は主に往来物・教科書類、国史史料、近世小説、読本実録類が多い稀覯の写本、版本、その他絵はがきにいたるまで丹念に収集保管されたもの約3,000点、

・明治百年写真資料 明治4年の廃藩置県により埼玉県が発足してから昨年(昭和46年)で100年にあたる。そこで県では埼玉百年を記念して、写真で綴った埼玉百年記念誌『目でみる埼玉百年』を刊行した、本書の編集刊行に際し多くの貴重な資料を提供下された方々のためにこれらの原版を大切に保存している。写真資料 (1)プリント写真6,395枚 (2)モノクロネガ659束 (3)モノクロネガ(アルバム)14冊 (4)カラーポジアルバム7冊。

〔県立熊谷図書館〕

・稲村文庫 埼玉県文化財審議委員稲村坦元氏の旧蔵書。埼玉県、東京都関係史誌ならびに各地の史跡名勝天然記念物・文化財の調査報告・社寺関係資料が多い。形体的には小冊子、抜刷、一枚刷などがかなり含まれている。約1,200冊。

・鹿沼文庫 故鹿沼辰次郎氏(元県立松山高校教諭)の旧蔵書。国文学研究書、一般的な

漢籍などが主となっている。約400冊。

・青淵文庫(豊里中学校図書館)・渋沢栄一伝資料集二組、大栄百科事典原書、寛永2年出版不知物語(小説)150冊、大和草紙、江戸の町区別地図、その他伝記類等。

〔小川図書館〕

・戸田文庫 故戸田宇八氏の旧蔵書、内容は洋書約500冊、明治時代刊行の政経法律書369冊、和書約2,000冊、その他郷土資料等。

〔本庄図書館〕

・中村文庫 故中村富次郎氏の遺志として寄贈された資金にて中村文庫を創設、市民有志の研究の資に供している。

〔県立浦和図書館文書館〕

県立浦和図書館の文書館は、最近における本県の急激な社会変ぼうから、郷土に関する歴史的に価値ある文書・記録等の散逸を防ぎその保存と利用をはかることを目的として、昭和44年度に設置され、現在までに県内各地から古文書約148,000点、行政文書15,513冊を収集しているが、概要は次のとおりである。

① 北足立地区——会田家 日光御成街道足立郡大門宿本陣、紀州家鳥見役、本陣・問屋関係、紀州鷹場関係等、10,015 厚沢家 足立郡代山村名主、近世初期検地・名寄、日光社参関係等 1,899 逸見家 秩父郡野巻村名主 鉢形北条氏 文禄・慶長検地帳等 29 浦和宿本陣 小田原北条氏 豊臣秀吉宿市場禁制、浦和宿並絵図 伝馬等 29 武笠寛家 足立郡三室村名主 貢租・見沼新田検地・大門宿助郷関係等 1815 武笠神主家 氷川女鉢神社社家 神領三室村支配関係等 304 小島家 足立郡植田谷本村名主 旗本領割元 鴨川治水 新田経営等 627 西角井家 氷川神社社家 神領支配 全国各地社寺朱印状等 8,000 大島家 足立郡南中丸村名主 天正検地 旗本代官 長芋栽培献上関係等

1,000 清河寺 足利持氏 太田氏寄進 状住職補任等 45 友光家 中山道足立郡上尾宿問屋 助郷 御林 貯穀関係等 47 藤井家 足立郡原馬室村名主 伝馬助郷 村方騒動 改革組合 貢租等 660 馬室村役場 戸長役場 旧馬室村行政文書 500 加藤家 足立郡羽貫村名主 戸長役場 地頭賄 水利・治水関係等 3,001 平川家 足立郡小針内宿村名主 戸長役場 近世写本等 3,000 明星院 徳川家康・秀忠新儀真言宗法度 談林教学 明治期触元役等 509 金子家 葛飾郡小淵村修験不動院 小田原北条氏 徳川家康行事職安堵 聖護院門跡御教書等 31

② 入間地区——平山家 入間郡平山村名主 商業金融 酒造 権田直助関係等 7,018 相馬家 入間郡西戸村修験山本坊 聖護院門跡御教書 近世初期検地 貢租 近世修験関係等 300 稲生家 旗本稲生氏 日光奉行在勤日記 大目付袋廻留 役儀関係等 2,140 田中家 入間郡脚折村名主 戸長役場 農工銀行 日記等 1,000

③ 比企地区——猪鼻家 比企郡角泉村名主 川越領割元 漢籍写本等 1,600 道祖土家 太田氏 小田原北条氏 軍役負担 棟別銭等 26 森田家 秩父郡大野村名主 御林山年貢 大河原炭 酒造関係等 9,000 野口家 秩父郡大野村名主 御林 大河原炭 戸長役場関係等 1,500

④ 秩父地区——新井家 秩父郡太田部村名主 寛文検地 近世初期貢租 家抱関係等 3,886 若林家 若林嘉陵著作 漢籍等 216 稲島卓家 槻川同志会 秩父事件史料等 300

⑤ 児玉地区——諸井家 中山道児玉郡本庄宿名主 幕末維新期五衛組戸口 救恤 貯穀等 856 浅見家 児玉郡阿久原村木曾御獄教大先達新田家関係等 1,500

⑥ 大里地区——野中家 幡羅郡中奈良村名主 伝馬助郷 利根荒川用治水 旗本財政等

11, 229 久保家 大里郡佐谷田村名主 伝馬助郷 忍藩 戸長関係等 5,000 備前渠土地改良区 近世備前渠改修・維持記録 34 根岸家 大里郡青山村名主 金融質地 草莽荒川和田吉野川治水等 5,934 持田英家 榛沢郡荒川村名主 鉢形北条氏禁制 文禄檢地等 1,207 持田文家 榛沢郡荒川村組頭 村境論争 巡見使等 248 飯島家 男衾郡板井村旗本代官 貢租入間県布達等 963 長谷部家 榛沢郡黒田村 鉢形北条氏関係等 15 宇野家 榛沢郡北根村旗本代官 漢籍等 1,500

⑦ 北埼玉地区——長谷川家 埼玉郡北河原村名主 明治初期学務 埼玉県布達等 1,000

⑧ 南埼玉地区——法華寺 後醍醐天皇旨 足利尊氏御教書 太田氏 寺院経営等 352

児玉南柯 岩槻藩儒 日記 自筆著作等 147 勝田家 岩槻市連雀頭 高力清長 後北条氏 市立関係等 160 田口家 岩槻藩士 大岡家由緒書 家臣諸席取調 岩槻町会関係等 62 吉田愛家 埼玉郡箕輪村名主 寛永田畑帳 新田檢地 戸長関係等 371

吉田佐家 埼玉郡横根村名主 御用留貢租 県布達等 4,000 関根家 埼玉郡上野村名主 香灸帳 小作関係等 104 篠崎家 埼玉郡上平野村名主 見沼代用水・元荒川普請 土地貢租等 3,800 飯野家 埼玉郡蓮田村名主 助郷 県政・政党重要記録等 5,070

忠恩寺 太田資正判物 縁起 徳川氏朱印状等 13 鬼久保家 埼玉郡小久喜村名主 御用留・貢租関係等 4,000 中島家 日光街道埼玉郡粕壁宿本陣 粕壁宿公用日記 人別等 200

⑨ 北葛飾地区——遠藤家 葛飾郡千塚村名主 地方・小作関係第 650 幸手町立図蒐集 葛飾郡長間村・平塚村関係 550 相沢家 埼玉郡葛梅村名主 七曲堤用水 御用留貢租関係等 3,739 白石家 葛飾郡西大野村

名主 貢租 地租改正 商業金融 学事関係等 4,000 土生津家 下総葛飾郡西金野井村名主 治水 御用留等 7,080 小林家 下総葛飾郡下柳村名主 村入用 御用留等 1,700 大島有隣 心学問答 道話資料 日記等 石川謙旧蔵 69

⑩ その他——見沼土地改良区 見沼代用水元切 土地区 水利組合公文書等 455 埼玉県教育史編纂資料 近世・明治教科書等 1,030 埼玉銀行史編纂史料 武州・忍商業・八十五・飯能他県内主要銀行経営関係 20,000 文書館蒐集 秩父郡太駄村文禄・慶長檢地帳 浦和宿之記 川俣関所関係資料 埼玉県布達 比企郡小川町穀仲間連名帳等82

[埼玉県行政文書]

現在文書館が収蔵管理する行政文書は、明治元年より昭和36年までの94年間にわたり県が作成・収受し、完結編纂した文書15,513冊で、うち公開されている文書は昭和21年までの7,909冊である。これらの文書は、本県近代史解明に不可欠の資料であるばかりでなく、全国的にみても好

部別文書冊数

部 名	冊 数
庶務官房	1,524
県治	1,160
兵事	84
社寺戸籍	276
学務	637
衛生	11
土木	1,946
地理	650
勸業	1,228
国、地方費	237
県史誌資料	44
旧藩	11
その他	101
計	7,909

資料として学界を始め、各研究者の間で注目されている。上表は一般公開文書を部別にまとめたもので、県行政文書としての性格を窺うことができる。主なものの内容は次の通り。

①庶務官房一県政の中核部の資料として史料性の高い文書が多い。特に明治17年の秩父

- 事件史料・元県官履歴・知事更送書類・管下布達および県報等
- ② 県治—一区戸長制・市制町村制下の戸長・連合戸長・町村長任免・市町村合併・県会・町村行政に伴う条例の制定改廃等
- ③ 土木—明治期の道路・船橋・橋梁・馬車鉄道・鉄道等の交通関係資料・災害復旧工事・官有建物の営繕関係等
- ④ 学務—学制頒布以後県教育行政資料として

- の県立学校・管下小学校の創立や教員の任免等
- ⑤ 旧県—明治4年以前の浦和、大宮県、忍、岩槻藩（県）関係等
- ⑥ 勸業—明治前期の勸業統計、士族授産、明治・大正期の小作慣行調査・小作争議、産業組合・同業組合、耕地整理関係等（あさみ・としじ：埼玉県立浦和図書館埼玉資料係長 もりた・ゆういち：同古文書係長）

山形県下の特殊コレクション

三 春 伊 佐 夫

山形県における図書館のうち、公共図書館13館あるが、特殊コレクションの数は少ない方である。

酒田市立光丘図書館（酒田市日吉町2—7—71）は、旧光丘文庫が市立図書館に移管されたもので、珍書、典籍が多い。

幕末から、明治にかけて、博物学者、政治家として活躍した松森胤保（1825—1892）の松森文庫に、庄内地方の地方史、生物等の書籍が多く、『両羽博物図譜』は、山形県の文化財となっている。福利館蔵書は山形市佐藤利兵エの書籍1,437冊および、明治から大正にかけて山形地方の社会主義運動をした小松謙輔所蔵本314冊（山形県立図書館にも小松謙輔旧蔵本あり）がおさめられている。

江戸時代、庄内藩亀ヶ崎城、城代家老、松平武右衛門父子の記録、庄内藩日記、亀ヶ崎在藩御用留なども重要なものである。また遠藤宗弥の地方史のコレクション「如雲文庫」、また、岩波の『哲学辞典』の編者、伊藤吉之助（1885—1961）の、美術、ドイツ文学関係図書が創業期の岩波書店の図書を中心に2,000冊、大川周明（1886—1957）の没後、庄内地方の大川支持者たちによって、回教を中心とし

た図書、2,200冊が同館におさめられている。鶴岡市立図書館（鶴岡市馬場町4—7）

「楽之文庫」

博物学者、中村正雄のコレクションで、主として、植物、動物関係の書1,600冊がおさめられている。

「庄内史編さん会図書」

昭和のはじめから同19年まで、庄内地方の歴史を編さんする目的で収集、筆写された郷土資料和書432冊所蔵されている。以上は、鶴岡市立図書館蔵書目録に収録されている。

そのほか、庄内藩・酒井家の藩校、致道館の経書、史書等の漢籍366部6,895冊、昭和初期から14年まで山添村（現櫛引町）でエスペラント運動、ローマ字教育、方言研究と32才の短い生涯をおえた斉藤秀一（1908—1940）のコレクション、北海道史の編さんに従事し、山形県の史跡名勝天然記念物調査委員の阿部正己（1882—1946）のコレクション、慶応義塾大学図書館に長く勤務し先年なくなった国分剛二のコレクションも同館におさめられている。また致道博物館（鶴岡市家中新町）には、藩主酒井家より同館に寄贈された酒井家文書がおさめられている。